

College of Asian Scholars(CAS)  
(タイ王国)

期間:8月24日～9月6日

費用:飛行機代 90,000円

食費 一食約30～45円

宿泊費 4500バーツ(約13000円)

制服代 500バーツ(約1500円)

※タイの大学には制服があります。私達は購入しましたが、制服の購入は任意です。

大学のホームページ [http://www.cas.ac.th/Japanese/about\\_cas.asp](http://www.cas.ac.th/Japanese/about_cas.asp)

実習者 井上雅司 清水すみか

★「College of Asian Scholars(CAS)」

私たちが、今回お世話になった大学です。創立者は、Dr.カセー シャナウォンという方です。Dr.カセーは、東北部の経済的に恵まれない子供達に教育を受けさせるために尽力されている方です。日本人の先生は、江沢先生と荒井先生の2人だけしかいませんでした。

江沢先生の教えられているクラスのうち、中国人留学生11人・ベトナムの学生が1人のクラスでアシスタント・教育実習をさせて頂きました。学生が使っている教科書は、「みんなの日本語」を少し変えたオリジナルの教科書でした。だいたい教科書は、一通り終わっていると先生から聞いていましたが、日本語を勉強してもなかなか使う機会がなく、興味がない学生でも授業を受けなければならないので、学生の日本語のレベルはバラバラでした。先生は教科書中心の授業ではなく、教科書は、単語が分からない場合しか使っていませんでした。ほとんどが板書・身近なレリアアを使って指導していました。コミュニケーションを大切にされている方でした。

2週間のうち4回授業に参加し、4回のうち2回は見学&アシスタント、あとの2回は教育実習でした。教えた内容は、「なに・いくつ・いくら・どこ・だれ・これ・それ・あれ」です。考える時間を5分ぐらいもらい、この課題を2人でどう教えるか考えて教えました。急だったので、実習中(授業中)に考えてしまう時間が長すぎて、なかなか授業が進みませんでした。身近なものを使って、例などを出せばいいのに、なかなかそれができず、先生からたくさんのご指導を頂きました。



荒井先生の時は、3回授業見学をさせて頂きました。3回のうち2回は、英語科の2年生のクラスを見学しました。荒井先生も「みんなの日本語」をお使いでした。荒井先生は、教科書を中心に教えられている方でした。1回目は、授業の見学でした。数字の読み書きの授業でした。2回目は見学+学生の授業のフォローをしました。第3課を教えていました。3回目は、違うクラスを急遽見学させて頂きました。生徒が4～5人しかいませんでしたが、前のクラスよりレベルが高いクラスでした。漢字も学習している途中で、だいたいの日本語を理解しているクラスでした。

★タイ語の勉強

日本語を教えるだけでなく、1日1時間ぐらいタイ語の勉強をしました。教えてくれたのは、タイの学生でした。日本の大学に留学をしていたことのある学生が、私たち2人にタイ語を教えてくれました。タイ語だけでなく、2週間私たちに付き添ってくれていた学生でもありました。

★「コンケン商業学校(高校・短大)」アシスタント・実習

1週間のうち水曜日と木曜日の午前中だけ、江沢先生は「コンケン商業学校(高校・短大)」に日本語を教えに行ってもらっています。ご担当は、高校2年生と短大2年生のクラスでした。私たちは、2週間のうち4日間、先生と一緒に「コンケン商業学校」に行きました。

短大では、2クラスの授業見学とアシスタントをしました。1週間目の2日間は、自己紹介と家族の紹介の授

業でした。2週間目の2日間は、小テストの問題内容を教える＋小テストでした。短大では、あまりレベルが高くないので、合格させるために必ずテストの内容を教えないといけないそうです。小テストの内容は、4つの選択問題でひらがなのローマ字表記はどれか、質問された時の答え方でした。

例えば、「お元気ですか。」の返事を「①はい、お元気です。②いいえ、元気じゃありません。③はい、元気です。④いいえ、お元気じゃありません。」の中から選ぶというような問題でした。短大の学生は、ひらがなをまだ十分に理解できていないので、板書をする時は、ローマ字も書きました。



高校では、2年生のクラスのアシスタントと教育実習をしました。授業内容は短大の時とだいたい同じです。自己紹介と家族の紹介、数字の読み書き、文の並び替えの授業でした。私たちが教育実習した内容は、数字の読み書き、文の並び替えでした。数字は、数字からひらがな書きへ、ひらがなから数字へ、というのを教えました。先生から約5問ぐらい課題を出され、それぞれ自分でどのように教えるかを考え、実際にその授業で自分たちが考えたやり方で学生達に教えました。そして最後は、小テストの難しい問題を3問ずつ課題として出され、私達で答えの解説をしました。先生の手本を参考に教えました。なかなかうまくできず、何度か先生に助けを頂きました。高校のクラスは、ほとんどの生徒がひらがなを理解していました。ローマ字表記は必要ありませんでした。私達はタイ語が十分にできないので、日本語とジェスチャーで一息懸命教えました。生徒達も一息懸命に理解しようとしてくれたので、そんなに苦労はしませんでした。先生が、いつも私達をフォローしてくださっていたので、緊張しつつも最後までやり遂げることができました。また、教える時もすごく楽しかったです。授業中に生徒達から、授業内容とは関係ない質問がよくあり、授業が前になかなか進まないこともありましたが、質問に答えることによってクラスの雰囲気はよくなり授業に積極的に参加してくれていました。

テスト内容は、すべて選択問題で、タイ語から日本語・日本語からタイ語への単語の訳問題、数字問題、文の並び替え問題、穴埋め問題、日本語の文をタイ語に訳す問題でした。テスト問題には、ローマ字表記は1つありませんでした。テスト時間は約1時間でした。普段の授業には来ずテストの時だけ来る生徒達がおおり、テスト当日には、私達はその生徒の席まで行き、ヒントや解説をしました。普段の授業でも、私達が生徒の席に行き黒板の文をノートに書き写す手伝いもしました。

このテクノポン商業高校・短大では、授業の間に休憩時間がなく一時間目が終わるとすぐに二時間目が始まり、次の授業の準備をするのが大変でした。先生からテストの問題用紙のコピーの仕事を受けコピー室に行きましたが、コピー機が一台しかなく、他にも学生がいたので20分ぐらい待たされ、急いで教室に行きテストをしました。

以下テストの一部です。

1. 98

1 きゅじゅうはち 2 ななきゅう 3 はちじゅうろく 4 きゅうじゅうはち

2. 34,800

1 さんまんよんせんはちひやく

2 さんまんよんせんはひやく

3 さんまんよんせんはっぴやく

4 さんまんよんせんはちひやく

3. ごじゅうきゅう

1 57

2 59

3 25

4 29



### ★テクノポンでの実習

コンケンから1時間半ぐらい離れた町「テクノポン」。

午前中は、「カセーパタナ学校(中学)」を見学しました。

「カセーパタナ学校(中学)」の生徒数は、約214人です。こちらの中学校では、学生の家庭の経済的な理由により制服や教科書などはすべて無料です。

カセーパタナ中学校では、3年生だけに日本語の授業を行っていました。先生は、日本人ではなく、日本で勉強していたタイ人の方でした。こちらでは、授業の見学をさせて頂きました。ひらがなのゲームをしていました。ひらがなの順番、書き順があっているかどうか生徒それぞれに答えさせ、あっている数が多ければ勝ちというようなゲームでした。今まで文字教育の現場を見たことがなかったので、文字教育の現場をみることができ、勉強になりました。黒板に私達が手本のひらがなを書いた時に江沢先生から、「丸文字じゃなくて、きちんとした字を書くように。」と注意を受け、手本となるようにきちんとした字を書くという課題が見つかりました。30分ほど見学させて頂き、あとは学校内の見学をしました。



こちらの中学では、韓国から2名のボランティアの方が来ていて、子供たちにテコンドーや、韓国語を教えていました。教室も韓国風の教室があり、スポーツ器具がたくさん韓国から寄付されていました。



午後は、「テクノポン商業技術学校(高校・短大)」を見学しました。

「テクノポン商業技術学校(高校・短大)」

- ・生徒数は約1900人です。
- ・高校・短大だが専門学校の様な学校です。
- ・設立されてから約26年です。
- ・ドクター・カセイが初めて作った学校だそうです。
- ・商業科と工業科に分かれています。

初めに学校見学をさせて頂き、見学後、30分「あいさつ」の模擬授業をさせて頂きました。こちらの学校も先生は、タイの方でした。何回も日本に留学していらっしゃる方なので、日本語の発音もきれいで、とても流暢に日本語を話される方でした。

受講生は、短大2年生の学生で、半分以上が女子学生でした。すごく元気の良い学生ばかりで、授業中もすごく盛り上がりました。タイでは、男の人が女の人に触れてはいけないので、少し触っただけで、学生からの冷やかしがあり、驚かされました。

実習の内容は、「あいさつ」の「おはようございます」「こんにちは」「こんばんは」「さようなら」の復習でした。まず、声に出して読み、絵パネルをみせて、あいさつの言葉を答えさせたりしました。生徒達は、既に習っていて、理解していましたが、一生懸命話を聞き、私たちに合わせてくれているのがすごくわかりました。私たちは困ることなく、授業ができました。思ったよりも早く終わったので、私たちは、タイ語で自己紹介をして、学生には日本語で自己紹介をしてもらいました。学生の中には、カンボジアから来ている学生も数人いました。タイでは、日本の漫画が有名なので、学生たちから色んな日本の漫画の名前が出てきました。例えば、クレヨンしんちゃん・ドラえもん・ドラゴンボールなどです。



#### ★学生との交流

CASの学生達に、タイ滞在中チューターとしてついてもらいました。ついてくれた学生はみなCASの1年間の留学で日本に来たことのある学生達でした。彼らとは、一緒に夕食を食べたり、土曜日曜はコンケン市内の観光をしたりしました。彼ら以外の学生達とも一緒に食事や遊びに行きました。日本語ができない学生達とは、英語や片言のタイ語でまたは、日本語のできる子の通訳でコミュニケーションをとりました。



#### ★まとめ

2週間という日程は長いようで短かったです。私にとってタイに行って一番大変だったのは、言葉でした。私たちに付き添ってくれた学生は、日本語がとても上手だったので、言葉には苦労しませんでした。しかし、それが自分にとってタイ語がなかなか覚えられなかった1つの理由でした。その結果、英語があまりできない・日本語があまりできない学生や全く言葉が通じない学生とコミュニケーションが取れなくて、すごく困りました。あ

まりにも、日本語に頼り切ってしまい、タイ語の勉強があっても、使いませんでした。勉強する時だけでなく、片言でもいいから、常にタイ語を話すべきだったと反省しました。

また、1日の予定の変更がよくあり、毎日の予定を自分たちで常に確認しておかないといけませんでした。そのことを、先生から前もって教えて頂いたのですが、私たちは、どうしても人に任せてしまうところが多かったため、予定が変わり、皆さんに教えて頂いても、メモをとってなくて、初めにもらった予定表ばかり当てにしていたため、予定を間違え先生に怒られたことがありました。

また、日本語を学生に教えるときに、頭で先に考えてしまい、急にこれをやってくださいと言われても、なかなかできませんでした。だから、教える時間よりも考える時間が長すぎたため、何度も先生に「考えていてはだめだ、常に話さなければ、時間ももったいない、また、学習者に不安な気持ちを与えてしまう」など色々指導していただきました。日本で教授法の授業をしていますが、日本で模擬授業をやるのと実際現地で指導するのは、全然違うのだと感じました。日本では、日本語がみんな分かっているので、苦勞することはあまりありませんでしたが、現地でそれがうまくできず、全く日本語が分からない学生ばかりなので、どのようにしたら学生は理解してくれるのか、身近なレアリアをどのように工夫して活用すればよいのか、改めて勉強になりました。2人の日本語の先生の授業を見学しましたが、江沢先生と荒井先生は、授業の仕方が違うので、色んな教え方があることも勉強になりました。

今回タイに来て、日本語の教育実習が勉強になったことはもちろんですが、私は当たり前の人の行動や人とかかわり方など、人としての当たり前の行動などを改めて痛感しました。また、コミュニケーションというのは、本当に大切なものだと思います。楽しいことばかりではなく辛い時もありましたが、今回タイに行くことができて本当に良かったと思いました。そして、今回タイで出会った人たちの繋がりをずっと大切にしていきたいと思っています。(清水すみか)



今回の実習では、日本語の授業見学や実習のほかに、タイの貧困地域の問題(教育、労働力としての子供、孤児の問題、インフラの整備)を見ることができました。お世話になった College of Asian Scholars(CAS)も、経済的に恵まれない子供達にも教育を受けさせるということで建設された大学だそうです。見学をさせていただいたテクノポーン商業技術大学・短大では何キロも離れた家からバイクで通学している学生が何人もいました。また、工学部では授業で使う機械が一台しかないという状況でした。町では、上下水道が完備されていますが、町から少し離れると上下水道はなく、雨水を使っている家庭がありました。それに子供が労働力として働かされていました。働いても収入が少なく、子供を育てきれず手放す家庭も少なくなくボランティアで訪ねた孤児院には、多くの子供がいました。その孤児院には、日本や韓国・アメリカなどからたくさんの寄付金が寄せられていました。日本からボランティアで大学生が何度か訪れたこともあり、日本語で子供達があいさつしてくれました。タイの大学ではボランティアがとても盛んで子供たちにご飯を作ったり、絵本の読み聞かせをしたりと様々な事が行われていました。

実習で、初めて文字教育の現場を見ることができました。実際に黒板にひらがなを書き教えましたが、先生から「生徒は先生の書いたひらがなを見て覚えるんだから、丸文字をやめ、書き順、はねる所や止める所などは正確に。」と指摘を受けました。大学で日本語教授法の授業をとっている時は、どのようにして文法を教えるかということばかり考えていて、文字(ひらがな、カタカナ、漢字)をどのように教えるかということは、あまり気にも止めていませんでした。今回の実習では、文字教育について考えさせられました。

また、知らない言語の国に行ったことはとてもよい体験となりました。それは、自分が外国語学習者という立場になれたということです。どのようにしたら飽きないで勉強を続けてくれるか、どのようにしたら身につけることができるか、ということを学習者の立場となって考えることができました。実際にタイで、生活をしているということもあり、授業で習った日常生活で使う言葉(数字や、買い物、挨拶、レストランでの注文)は、とても役にたちましたし、すぐに身につきました。(井上雅司)

#### ★謝辞

最後になりましたが、このインターンシッププログラムでお世話になりました、CASの先生をはじめ事務員の方々に心からお礼を申し上げます。